



今の「やりたい」は、
可能性のすべてではないかも。
キャリアパスを掘り下げるための
ヒントを与える。

GLAキャリア・メンター

OUCHI Reiko

大内 礼子 氏

人材開発・組織開発コンサルタント

福島県出身。埼玉大学経済学部卒業。2003年、黎明期のソフトバンクに入社。コーレンセンターに数年在籍したのち、人材開発・新卒採用・エンジニア人材戦略の領域を担当。2016年、グループ企業であるヤフーに異動し、人材育成・ダイバーシティ推進・組織開発の人事業務を経て、2020年に独立。また、立教大学、早稲田大学の非常勤講師としてリーダーシップ開発の授業を担当。学生のキャリア支援・企業研修講師としても活動中。



私のスタートライン

新卒で入社したソフトバンクで人事の部署に異動した時に、人材開発・育成にはたくさんの「理論」があることを初めて学びました。それまでは、現場経験だけで人は成長すると思っていたのです。でも実は、理論と実践の両方をもっていた方が応用しやすく、それら二つを行き来しながら経験を重ねる方が新しい環境に馴染むのが早いと知りました。技術の変化も、人の動きも激しくなった今、上司や先輩がすべて経験しているとは限りません。自分なりにカスタマイズしながら理論を実践に反映し、そこから成長していく。そういうキャリア支援を私は心掛けています。

「人が成長する」ために必要なこととは

2016年に異動したヤフーは「1on1ミーティング」という手法を国内でいち早く取り入れ、充実させていた企業です。1on1の定義はさまざまですが、簡単に言うと上司と部下の1対1の面談を通じた成長支援であり、最大の価値は部下の成長を目的にしていることです。ここで上司は、知りたい情報を一方的に確認したり、聞き出したりするのではなく、部下の振り返りを促します。これにより部下は経験からの学びを次に活かすことができるため、成長のスピードを上げられるのです。この1on1を通じて、私自身も大きく成長できたという実体験が、独立してより多くの人の成長を助けようという決意へつながりました。

働くイメージをつかみ、ポジティブに変える

フリーランスで活動する今は、コンサルタントとして企業の人材開発や組織の課題解決に関わったり、大学では教員としてリーダーシップやキャリアデザインなどを教えてたりしています。また、個人に向けたキャリア支援も行っており、それぞれの活動で得た知見を自身の中でも上手く循環させています。学生の皆さんにとって働くイメージはもづらく、漠然とした不安をもつ方も多いと思います。でも、今焦る必要はありません。私自身、社会人の先輩でもありますから、リアルな話を通じて将来の選択肢が増えるようしっかりとサポートしていきます。そして働くことをポジティブに捉えることができる学生を一人でも多く増やしていきたいと考えています。



GLAキャリア・メンターとして伝えたいこと

「やりたいこと」を具体的に言えるということはすごいことです。でも一方で、それは自分が今知っているごく限られた範囲での「やりたいこと」かもしれません。もしかしたら今後変わる可能性もあります。だからこそ、最初から決めてからずに、「何がきっかけ」で「なぜ、それをやりたいのか」と一緒に掘り下げていきたいと思います。もしかしたらその掘り下げ方によっては、自分が本当にやりたいことや明確な理想が、皆さん自身の言葉として出てくるかもしれません。また、就職活動がゴールではなく、めざす職業が将来的に変わることだってあります。皆さんのがもっているものを一つひとつクリアにしながら、キャリアパスを広い視野で見られるよう、ともに考えていきましょう。